

北海道から 青森県へ

氏名 嶋 中 朋 子

北海道厚岸町立厚岸小学校 → 青森県青森市立原別小学校

(期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日)

1 派遣先の学力向上等の取組

○ 県独自の学力調査

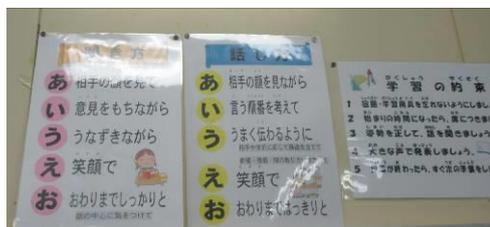
- ・本県では、5月に小学校第5学年、中学校第2学年を対象に、学力状況調査を実施している。採点は学校で行い、1月に「確かな学力講座」という4教科分の研修を受ける。その際、学校の採点結果や通過率を記載したものを持参していく。担当者はその講座を聞き、本校の学校で講座内容を職員会議などで説明して職員全体で確認し、成果を確かめている。

○ 黒板の板書

- ・㊦, ㊧, ㊨, ㊩ (理科の場合㊪) を使って、学習の流れを固定化した。児童が次の取り組みに見通しがもてる。

○ 話し方・聞き方の掲示

- ・低・中・高と学年に応じた話し方と聞き方のポイントを掲示することにより、発表者だけでなく聞く方も意識づけて活動することができる。



○ 家庭学習について

・家庭学習の掲示

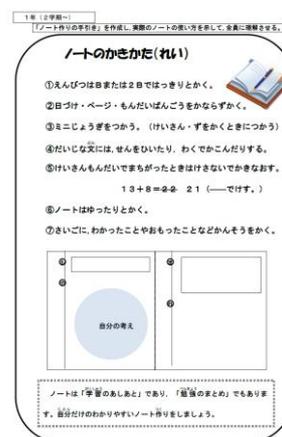
月に2回、学習の手本となりそうなノート(全学年分)を児童が目につきやすい場所に掲示していた。掲示ノートには、教師によってその家庭学習の良い点が書かれている。児童も自分のノートが掲示されたことで励みになり、次も頑張ろうと意欲をもったり、他の児童も学習の取り組みへ向けての参考になったりしていた。



- ・家庭学習の目安時間と内容について年度始めに、目安時間と学年に応じた学習内容の例を配付し、保護者に取り組みを周知した。
児童の家庭学習ノートにも、学習内容の例を貼り、すぐ確認できるようにした。

○ ノートの指導

- ・教員間だけの周知だけでなく、児童にノートの書き方の例を提示した。自分の考えや友だちの考え、高まった考えや整理された考えをわかりやすくまとめられるようにノートの指導を行った。



○ 国語辞典の使用

- ・1年生から個人の辞典を持ち、調べ方を学んでいる。わからない言葉は、自分たちで調べて学べるような習慣になっていた。



○ その他学力向上に関わる取り組み

- ・少人数指導（TT、習熟度別など）の学習形態の工夫。
- ・4年生以上を対象に、「みのりの時間」の設置。
クラブ活動終了後、習熟度別に算数の学習を行っていた。

○ 児童の持ち物（筆箱の中身）の徹底

- ・持ち物についての学校の考えを、学年便りで伝え保護者へ理解を求めていた。ペン等はロック式ではないもので、色も赤と青に限定されていた。定規や消しゴムも学習の妨げにならないものを家庭で準備してもらった。

2 北海道に戻って実践したいこと

○ 持ち物の徹底

- ・学習用具を学校で統一することによって、学習への集中が高まると考えている。

○ 既習事項の掲示

- ・児童に学習の足あとがわかるような掲示物の工夫をしていかなければいけないと思った。

○ 家庭学習の啓蒙

- ・北海道の児童は、学習時間が短いと感じた。そのためにも、家庭学習の例を学級だよりにのせて、少しずつでも取り組む習慣を身につけさせなければならぬと感じた。